

ま え が き

本書は、アジア経済研究所において、平成17年度から平成18年度にかけて実施した「アジアにおけるリサイクル」研究会の成果をまとめたものである。歴史的な展開、アクターの役割、制度構築のあり方に焦点をあて、アジア各国・地域のリサイクルの現状について明らかにすることを試みている。

2005年の3Rイニシアティブ閣僚会合において、日本政府は「ゴミゼロ国際化行動計画」を発表した。同計画には、「東アジア循環型社会ビジョン」を2012年までに策定すること、開発途上国のゴミゼロ化を支援することなどが盛り込まれている。実際に、タイやフィリピン、ベトナム、インドネシアなどで、3R (Reduce, Re-use, Recycle) に関連した協力が始まってきている。しかしながら、アジア諸国のリサイクルの現状に関する研究蓄積は十分とはいえず、リサイクル等の現状把握、問題点の分析を進める必要がある。情報の蓄積が少ないことから、国際協力についても手探りで進めている状況といわざるをえない。

アジア地域のリサイクルについては、日本からの再生資源の輸出先がどうなっているか、今後も輸入が続くのかといった点に関して日本での関心が高い。再生資源や中古品の貿易については、平成17年に『アジアにおける循環資源貿易』（アジア経済研究所）を出版しており、本書とあわせてご利用いただきたい。本書では、再生資源や中古品の貿易については中心的な課題としては取り上げず、各国国内で発生した再生資源のリサイクルに焦点をあてている。とはいっても、リサイクル分野の国際化が進んでおり、各国・地域のリサイクルを考える場合にも無視できない要素となっている。そこで本書でも間接的にこの問題に触れていくことにしたい。

各国の産業廃棄物・リサイクル政策については、平成17年度、18年度に経

経済産業省からの委託事業「アジア各国における産業廃棄物・リサイクル政策情報提供事業」で、アジア主要11ヶ国・地域における基礎的な情報の収集・紹介を行っている。アジア各国・地域の産業廃棄物・リサイクル政策について、法制度、排出事業者の責任、処理・処分業者の責任、再生資源や有害廃棄物の輸出入の規制および貿易量等を報告書にまとめ、JETROおよびアジア経済研究所のウェブページに掲載している。廃棄物処理・リサイクル部門でアジア諸国に進出を考える場合や、アジア地域に立地している工場での廃棄物・リサイクル対策をどのように行うかに関連して基本的な情報が必要な場合には、「アジア各国における産業廃棄物・リサイクル政策情報提供事業」の報告書が参考となる。

これまでのアジア経済研究所におけるアジア地域のリサイクル関連の調査・研究と比べると、本書は、アジア各国の国内でのリサイクルに焦点をあてていること、アジア地域のリサイクルの状況を理解し、今後の方向性を考えるうえでの視角を提示しているところに特徴がある。

なお、本書の第2章、第4章、第6章、第8章、第9章については、環境省平成18年度廃棄物処理等科学研究補助金（3Rイニシアティブ特別枠）「アジア地域におけるリサイクルの実態と国際資源循環の管理・3R政策」（研究番号K1827 研究代表者 小島道一）の成果を取り入れたものとなっている。

最後に、ヒアリングなどに快く対応いただいた内外の企業や政府関係者、意見交換をさせていただいた研究者、有益なコメントをいただいた査読者、および本書の編集作業に携わられた方々に感謝の意を表したい。

2008年3月

編者